

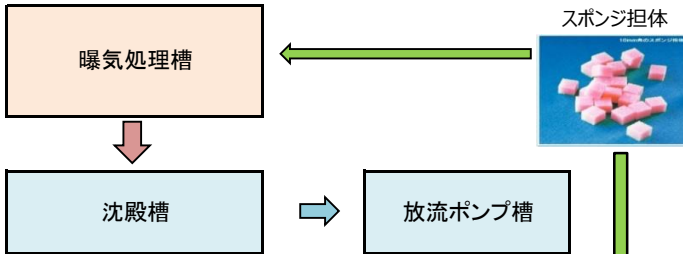


事業方針：丁寧な・熱心な作業も技術の一つです！

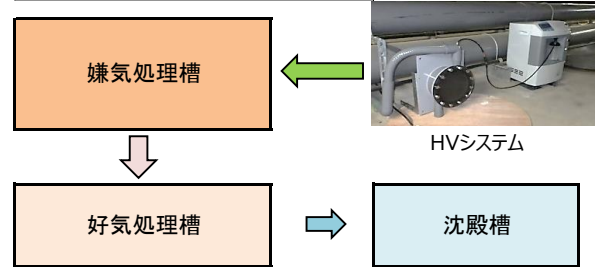
SDGs sustainable・maintenance

dsp処理槽・保守点検における「余剰汚泥減容・措置」(抜粋-減容対策)

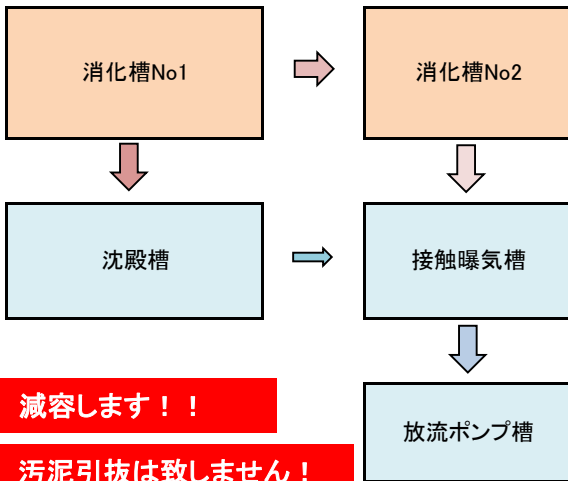
A 好気処理槽 + 沈殿槽



C 嫌気槽 + 好気処理槽



B 消化槽No1 + 消化槽No2 + 接触曝気槽



汚泥減容措置

A 好気処理槽 + 沈殿槽

B 消化槽No1 + 消化槽No2 + 接触曝気槽

MLSS（活性汚泥浮遊物質）の値が高くなれば、汚泥の分離沈降が悪化し沈殿槽をキャリーオーバーする恐れがあります。

汚泥減容対策

- ①曝気強度を増やす ②曝気槽にスポンジ担体を投入する
- ③それでも減容しないなら「dsp・HVシステム」の設置です。

C 嫌気槽 + 好気処理槽

嫌気槽は液化分解が遅れば引き抜きが必要ですが……。

①沈殿槽エアリフトポンプで、嫌気槽を1日3回転以上循環できれば、減容効果が期待できます……。

②好気処理槽に循環ポンプ設置し、処理工程水は特許酸素溶解装置を経由して嫌気槽の戻す。この作業を繰り返せば嫌気槽の汚泥は確実に減容できます。(dsp・HVシステム)

③酸素製造器の設置が叶わない箇所については、空気を酸素溶解装置に直接供給し、DOを確保・減容の裏技もあります。

減容します！！

汚泥引抜は致しません！

水物語 No126

高速道路わきで「鵜の巣営地」に出会いました！



週末、成田に向かって高速を走ると、左側窓の外で鵜の大群が木々に止まっているのを見つけました。そこは市川市千鳥町です。千鳥町を調べて見ると「谷間や山中に千鳥が鳴いていたこと」に由来するとありました。東京は大田区に鵜ノ木の地名があります。町名由来は、文字通り鵜が多く住んでいたことに起因しています。

鵜は河川に生息します。但し湖沼・河口付近や浅海域でも見られることができます。日本では本州、四国、九州に繁殖地があり留鳥（漂鳥）として生息、青森県下北半島が北限とされてたが、今では北海道でも繁殖が確認されています。黒色の水鳥で首が長く細い体つき、くちばしが長く先が鋭く下に曲がっています。水の潜って魚を捕りのどにある袋で一時貯える習性があります。

元旦に地震のあった能登半島・七尾市鵜浦町では、12月16日未明に神事があります。生け捕った一羽の鵜を二泊三日、能登一宮・気多大社まで道中します。鵜は生け捕った瞬間から神となり、鵜様と呼ばれ「道中は鵜様を拝まずして新年を迎えられない」と人々は手を合わします。鵜は神前で放されて吉凶を占います。この神事で能登半島地震が占えなかったか？例え凶と出ても「鵜が主役」だけに「鵜呑み」にできなかったか……？

特許 油脂ゼロポンプ槽推進中！ Dsp・ハイブリッドシステム推進中！ クリーンテックサービス東京